

投資者の皆様へ

2020年3月11日



商 号 SBIアセットマネジメント株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第311号  
 加入協会 一般社団法人投資信託協会  
 一般社団法人日本投資顧問業協会

**基準価額の下落要因及び今後の見通しについて**

平素は弊社ファンドをご愛顧いただき、誠にありがとうございます。直近で海外株式市場が大幅に下落した影響から、3月10日における弊社の下記ファンドの基準価額が大きく下落いたしました。その要因等についてご報告申し上げます。

**1.基準価額及び騰落率(3月10日)**

ファンド名称	基準価額	前営業日比	騰落率
ハーベスト アジア フロンティア株式ファンド	9,311 円	▲762 円	▲7.6%

○本資料は、SBIアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。○投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。○投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。○お申込みの際には必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

## 2. 基準価額の主な下落要因

本ファンドの投資先ファンド(ハーベスト・アジア フロンティア エクイティファンド クラスJ(以下、ハーベスト AF エクイティ ファンドとします。))を運用するハーベスト グローバル インベストメント リミテッド社の運用担当者は、今回下落した主な背景と要因に関して、下記のようにコメントしています。

ハーベスト AF エクイティ ファンドの1口当たり純資産価格は、直近の株式市場の急落や円相場の急騰で下落し、対ドルで円は4%超の円高となりました。

石油輸出国機構(OPEC)会合の減産協議決裂のショックにより、原油相場は1991年以来の一時▲30%超の下落となりました。あらゆる資産クラスが急落し、アジア・フロンティア株式市場も大幅な下落に見舞われました。3月9日(現地時間)におけるベトナム株式市場は、大型株が業種を問わず、ストップ安の値幅制限である前営業日比▲7%まで売られました。同様に、バングラデシュ株式市場やスリランカ株式市場も急落に見舞われました。

なお、ハーベスト AF エクイティ ファンドの保有銘柄に関しては、香港上場のフロンティア関連株式が市場平均を上回る収益率を上げています。一方、月初来ではベトナム株式市場、バングラデシュ株式市場、スリランカ株式市場は、それぞれ▲14%、▲10%、▲13%下落しています(3月9日時点)。これは、主にフロンティア市場の低流動性が急落に拍車をかけていることが要因と我々は見ています。

このような環境下、サウジアラビアとロシアがいつ石油減産協議の交渉のテーブルに戻るかを予測することは難しくなっています。新型コロナウイルスへの我々の見方と同様、こうした原油相場に影響を及ぼすシナリオを考慮すると、状況を安定化させるためにさまざまな国々から追加の財政金融政策が実施されると見えています。

我々は、直近で米国が利下げすると言及していましたが、米連邦準備制度理事会(FRB)が素早く行動したことは予想外でした。現在も原油相場は下落基調にあることから、インフレ懸念は後退し、利下げ余地を生み出しています。米国では実際に、減税観測も広がっています。

フロンティア市場の大半は原油の輸入国であることから、追加緩和観測や原油安に伴い、フロンティア銘柄の選好は奏功する可能性があります。一方で、我々が確認しなければならないことは、市場が安定化に向けて回帰するかどうかです。財政金融政策による景気下支えの余地はあることから、2020年後半は株式市場の急反発があると想定しています。株価反発の可能性があるセクターとしては、需要の急回復に加えて、原油安を通じて家計の可処分所得が増加する見込みがあることから、消費や観光関連業種があげられます。製造業については、操業を停止した工場の増産には時間を要することから、株価の反発にはある程度長い時間がかかるかもしれません。

なお、ハーベスト AF エクイティ ファンドは石油関連の銘柄は保有しておらず、引き続き比較的高い現金比率を維持しています。株式市場が弱含むようであれば、さらに現金比率を高める方針です。

以上

## ハーベスト アジア フロンティア株式ファンド

### ファンドの費用

購入時手数料	購入価額に3.3%(税抜3.0%)を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。詳細は販売会社にお問い合わせください。	
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に対して0.3%を乗じて得た額を、ご換金(解約)時にご負担いただきます。	
運用管理費用 (信託報酬)	投資対象とする 投資信託証券 <sup>*1</sup>	年0.65%程度 *1 本ファンドが投資対象とする投資信託証券のうち信託報酬が最大のもの(年率0.65%)を表示しています。
	実質的な負担 <sup>*2</sup>	年2.124%(税込)程度 *2 本ファンドが投資対象とする投資信託の信託報酬を加味した、投資者の皆様が実質的に負担する信託報酬率になります。(2019年10月末現在)
その他の費用 及び手数料	ファンドの監査費用、有価証券売買時にかかる売買委託手数料、信託事務の処理等に要する諸費用、開示書類等の作成費用等(有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書、運用報告書等の作成・印刷費用等)が信託財産から差引かれます。なお、これらの費用は、監査費用を除き、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことができません。	
投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。		

○本資料は、SBIアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。○投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。○投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。○お申込みの際には必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

## ファンドにかかるリスクについて

### 【基準価額の変動要因】

本ファンドは、主に投資信託証券への投資を通じて株式などの値動きのある証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。特に、本ファンドは投資信託証券への投資を通じて実質的にフロンティア諸国の株式等への投資を行います。一般的にフロンティア市場への投資は、先進国市場への投資に比較して、カントリーリスクや信用リスク等が高くなります。したがって、基準価額が大きく下落し、非常に大きな損失を生じるおそれがあります。本ファンドに生じた利益及び損失は、すべて投資者に帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。本ファンドの基準価額は、主に以下のリスクにより変動し、損失を生じるおそれがあります。ただし、基準価額の変動要因は以下に限定されるものではありません。

#### <主な変動要因>

##### 株価変動リスク

株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績・財務状況、市場の需給等を反映して変動します。株価は、短期的または長期的に大きく下落することがあります(発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。)。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。

##### 為替変動リスク

外貨建資産の円換算価値は、資産自体の価格変動の他、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。為替レートは、各国・地域の金利動向、政治・経済情勢、為替市場の需給その他の要因により大幅に変動することがあります。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向にすすんだ場合には、基準価額が下落する要因となります。

##### カントリーリスク

投資対象国の政治、経済情勢の変化等により、市場が混乱した場合や、組入資産の取引に関わる法制度の変更が行われた場合などには、有価証券等の価格が変動したり、投資方針に沿った運用が困難な場合があります。これらにより、ファンドの基準価額に影響を受け損失を被ることがあります。特に、本ファンドが実質的に投資するフロンティア市場には、一般に先進国の市場に比べ、規模、取引量が小さく、法制度(市場の法制度、政府の規制、税制、外国への送金規制等)やインフラストラクチャーが未発達であり、低い流動性、高い価格変動性、ならびに決済の低い効率性が考えられます。また、発行者情報の開示等の基準が先進国と異なることから、投資判断に際して正確な情報を十分確保できないことがあります。このように、フロンティア諸国への投資については、一般的に先進国への投資に比べカントリーリスクが高くなります。

##### 信用リスク

投資した株式について、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化を含む信用状況等の悪化は価格下落要因のひとつであり、これによりファンドの基準価額に影響を受け損失を被ることがあります。特に、フロンティア諸国の株式は、先進国の株式に比べ、相対的に信用リスクが高くなると考えられます。

##### 流動性リスク

投資者から解約申込があった場合、組入資産を売却することで解約資金の手当てを行うことがあります。その際、組入資産の市場における流動性が低いときには直前の市場価格よりも大幅に安い価格で売却せざるを得ないことがあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。特に、フロンティア諸国の株式は、先進国に比べ、相対的に流動性リスクが高くなると考えられます。

## 投資信託ご購入の注意

- 投資信託をご購入の際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ、もしくは同時にお受取りになり、内容をご確認ください。
- 投資信託は値動きのあるものであり、元本保証、利回り保証、及び一定の運用成果の保証をするものではありません。  
したがって、運用実績によっては元本割れする可能性があります。
- 投資信託の基準価額の下落により損失を被るリスクは、投資信託をご購入のお客様が負うこととなります。
- 投資信託は預金ではなく、預金保険の対象ではありません。
- 銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。

○本資料は、SBIアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。○投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。○投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。○お申込みの際には必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。